

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部事業活動報告

事業名	現場研修会（トンネル研修） (CPD番号 26-13)
委員会・研究会名	施工研究会
日 時	平成年月日（平成27年1月15日）10:30～12:00
場 所	宮古市小国地内 一般国道340号小峠トンネル
参加人数等	10人

活動内容

◎(株)奥本組・(株)大本建設・高徳建設(株)JV事務所に集合し、発注者から概要説明を受け、その後、切羽調査と意見交換を行った。

(講師) 沿岸広域振興局土木部：佐藤主査、熊谷主任

JV：松島所長、柴田現場代理人、仁後主任

1 事業概要（熊谷主任）と施工状況（松島所長）説明

- 立丸峠は、国道340号中の隘路となっていた。
- 東日本大震災からの復旧において、復旧拠点の遠野市から沿岸各都市を結ぶ重要な路線であることが再認識され、復興支援道路として整備を進めるものである
- 整備は、宮古土木センター所管の小峠工区（L=1.7km）新田工区（L=0.25km）と遠野土木センター所管大峠工区（L=3.26km）からなる。

・今回、見学する小峠トンネルは、小峠工区に位置するトンネル築造工事である。

(意見交換)

・CⅠからCⅡに変える判断と理由付けが難しい。切羽フォーマット等、定量的に評価し、判断することが必要である。

・現場地質のほか地質図や地形図、流紋岩という岩質の成り立ち、性質を理解し、総合的に俯瞰し、今後の切羽の状況を予測することが重要である。

2 切羽調査

・切羽は宮古側坑口から、412m地点（N048+3）

・当初設計ではCⅡ区間となっているが、切羽表面の剥離から、CⅡで施工を続けている。

・岩質としては結晶の固結状況から流紋岩より芯部の石英斑岩に近いものと考えられる。

・一般的に流紋岩は、一部灰を巻き込んでいたり、急冷による収縮クラックなど工事するには良い岩質ではない。

・水の付着状態が小さいことや、今後、物探速度も大きくなり芯部に向かうものと予想されることから山が悪くなるとは考え難い。

・岩質は堅いが、表面的に剥離性が認められるとのことであり、切羽フォーマットで定量評価し、CⅡへ変更するタイミングを図るべきである。



事業概要説明
[平井記]



切羽調査



岩質調査

(※ 活動状況の写真を貼り付けてください。)